

第70回日本産科婦人科学会

P2-29-1

宮城, 2018.05.11-13

当院での慢性子宮内膜炎検査の現状とその後の転帰

Current status of chronic endometritis Test for woman with recurrent implantation failure at our clinic

1. 門上大祐 重田護 太田志代 山内博子 高矢千夏 勝佳奈子 中岡義晴
2. 森本義晴 1.IVF なんばクリニック 2.HORAC グランフロント大阪クリニック

慢性子宮内膜炎(CE:Chronic Endometritis)は、細菌感染等による子宮内膜間質への形質細胞の浸潤を特徴とした疾患であり、近年着床不全との関連性が示唆されている。今回、当院での CE の治療データと妊娠転帰について後方視的に検討したので報告する。

原因不明の反復着床不全歴のある患者で、2017年1月から6月の間に CE 検査を施行した症例を対象とした。子宮内膜を採取し、内膜間質に CD138 陽性細胞を複数個認めた場合に CE 陽性と診断した。治療は第一選択薬としてドキシサイクリン、メトロニダゾールを使用し、治療抵抗性の場合はシプロフロキサシンに変更した。抗生剤使用後に内膜を採取し、CE の治癒を認めた後に胚移植を行った。CE 陰性の患者に対しては、内膜を2日後ろにずらして胚移植を行った。

対象患者は 52 名であり、年齢は 39.5 ± 4.4 歳(27-47 歳)、治療歴は胚移植回数 4.0 ± 3.2 回(1-15 回)、移植胚数 6.0 ± 4.6 個(1-23 個)であった。CE 陽性は 36 名(72%)、陰性は 16 名(28%)であり、抗生剤治療を行った中の 20%の症例で治療抵抗性を認めたが、最終的には全例で CE の消失を確認した。

CE 治療後の患者 13 人に対して胚移植を行い、妊娠反応陽性が 7 名(妊娠継続中 2 名、稽留流産 2 名、化学流産 4 名)であった。CE 陰性患者 5 人に対しても胚移植を行い、妊娠反応陽性が 4 名(妊娠継続中 2 名、稽留流産 1 名、異所性妊娠 1 名)であった。着床を妊娠 4 週での HCG 陽性と定義し、治療の効果を胚移植回数当たりの HCG 陽性率で評価したところ、内膜炎治療前は 7%であったのに対し、内膜炎陽性患者の治療後は 30.1%、内膜炎陰性患者においては 60%と良好な結果が得られた。

CE は子宮の着床環境を障害する可能性が示唆された。また、原因不明の反復着床障害の症例で CE 陰性の場合、胚移植の時期を考慮することも有用であると思われた。

今後症例を増やしてさらに詳細な検討を行いたい。